

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

夜蛾類（果実吸蛾類）の防除対策の徹底について

夏季の夜温が高く推移すると夜蛾類の活動が活発になり、果樹で大きな被害が発生します。

気象庁によると、本年は平年より早く 6 月 27 日に梅雨が明けたとみられます。また、九州北部地方の 3 か月予報（福岡管区气象台、6 月 24 日発表）では、向こう 3 か月（7～9 月）の平均気温は高いと予想されており、今後、夜蛾類による被害が発生するおそれがあります。

つきましては、下記事項を参考に、防除対策を徹底するよう生産者への指導をお願いします。

記

1. 夜蛾類の生態

1) 主な種類は、アカエグリバ、ヒメエグリバ、アケビコノハ等である（写真 1）。幼虫は林野に自生するアケビ、カミエビ等の植物を餌として生育する（表 1）。成虫は日没後果樹園に飛来し、果実に小さな穴をあけて果汁を吸汁する（写真 2、3）。吸汁された果実は、後に腐敗する。

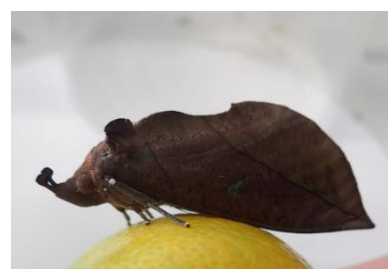


写真 1 アケビコノハ成虫

2) いずれの種も、梅雨明け後に高温乾燥が続くと活動が盛んになる。特に、夜温 25℃以上の日が続くと被害が大きくなる。

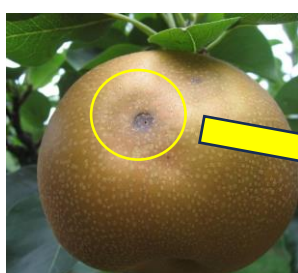


写真 2 夜蛾による被害（ナシ）

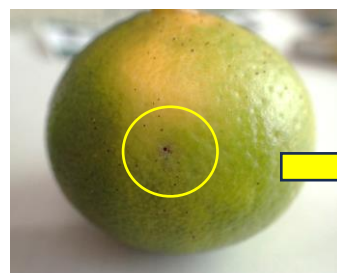


写真 3 夜蛾による被害（カンキツ）

表 1 夜蛾類幼虫の寄主植物

夜蛾類	寄主植物
アカエグリバ	カミエビの葉
ヒメエグリバ	カミエビの葉
アケビコノハ	カミエビ、アケビ、ムベの葉

2. 防除対策

1) 物理的防除

(1) 防蛾灯の設置

①防蛾灯を設置すると被害を回避できる（写真4）。光源は、黄色灯（波長 600 nm）を用いる。夜蛾類の活動を抑制するためには、園内くまなく 1 ルクス以上の明るさを保つように設置することが重要である。



写真4 防蛾灯を設置したナシ園

②点灯開始前に、きちんと点灯するか、園内の明るさは十分か

（1 ルクス以上）、点灯時間は日没直前から日の出までとなっているか確認する。

③点灯開始後も点灯状況を確認して、光源が切れたり、光の当たりムラがある場合は修理・調整する。

(2) 防虫ネットの設置

網目 6 mm以下の防虫ネットで園全体を被覆すると効果的である。

2) 耕種的防除

①果実の腐熟した匂いに誘引されるため、被害果や腐敗した果実は園外に持ち出して処分する。

②園周辺にある幼虫の寄主植物（表1）を除去する。

3) 薬剤防除

カンキツ・モモでは、夜蛾類による被害を確認したら薬剤を散布する（表2）。これらの薬剤は残効が短いことと、使用回数や収穫前日数に注意して散布する。

表2 カンキツおよびモモで夜蛾類に登録のある薬剤

作物名	農薬名	適用病虫害名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数
かんきつ	ロディー乳剤	アケビコノハ ヒメエグリバ	2,000倍	収穫7日前まで	4回以内
	アグロスリン水和剤	アケビコノハ ヒメエグリバ	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内
もも	ロディー乳剤	アカエグリバ アケビコノハ	1,000～2,000倍	収穫前日まで	5回以内
	アグロスリン水和剤	オオエグリバ ヒメエグリバ			

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病虫害防除部

〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085

Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページアドレス https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji00321899/index.html

病虫害総合防除計画掲載アドレス https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji003101844/index.html

防除セ QR コード



防除計画 QR コード

